

福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



東尋坊を案内する吉澤康暢氏

福井の自然史情報

追悼 吉澤康暢元特別館長

吉澤康暢氏は平成17年から14年間にわたって福井市自然史博物館の館長・特別館長を務め、博物館学芸員への指導、東尋坊の地質調査や火星の観測、地学・天文・植物の各分野における教育普及活動など、多岐にわたる博物館活動に尽力されましたが、令和6年1月17日にお亡くなりになりました。謹んで哀悼の意を表するとともに、当館におけるご指導・ご尽力に改めて感謝申し上げます。



当館マスコットキャラクター
「シジュウオ」

中面に関連記事があります。

吉澤康暢氏を偲んで

悠久の大地の歴史、その一瞬をフィルムに

うめだ みゆき
梅田 美由紀 (元当館学芸員)

吉澤康暢氏とは、氏が2005年に福井市自然史博物館の館長として招かれ、私が同館を退職するまでの7年間、一緒に多くの仕事をさせていただきました。中でも2009年に同館から発行した冊子『ふくい地質景観百選』は、氏のユニークな写真で構成されています。その企画・制作、現地取材作業を通して触れた氏のお人柄や印象に残っているエピソードをいくつか紹介させていただき、追悼文とさせていただきます。

福井の山・川・海の風景には数億年の時空を超えた大地の歴史があります。その歴史を知れば、見慣れた風景であっても何倍も面白く見ることができます。この知的楽しみ方を伝えたい、郷土の大地の生い立ちに興味を湧く本を作りたい、それが二人の共通した想いでした。

まず冊子全体のレイアウトの検討段階で、氏が強く主張したのは、景観写真をできるだけ大きく掲載し、説明文はコンパクトに。つまり視覚で読者の興味を惹きつける。矛盾するようですが、眺めているだけでもその場所を訪れた気分になれる印刷物にしたい、というものでした。本物の写真が持つ威力を心得ていたからこそその提案だったのでしょう。そして、既に自身が撮り溜めたポジフィルムも自宅から沢山持ち込んで、掲載写真の選定に当たり、シャッターチャンスが二度と無いような貴重なポジも本冊子に快く提供していただきました。

氏がこの企画の撮影に使用したのは愛用の蛇腹付き大型カメラで、フィルムはシノゴ（4×5インチ判）と呼ばれる大判ポジフィルムです。出来上がりの構図はすでにイメージされていた様子で、現地で撮影ポイントを決めるのは割と早く、この調子なら午前中に3か所は撮影可能なと算段していると期待は裏切られます。ポイントを決めてからの作業の長いこと。1カット撮影するのにたっぷり1時間は費やしました。撮影ポイントに立つと、まず三脚を安定させカメラを固定します。景色とファインダーとの間を繰り返し一心に見比べます。構図・露出・絞り・シャッター速度・ピントを隅々までチェックしていたのです。すべての設定を整え、漸くシートフィルムを差し込み、フィルムホルダーの遮光板を引き抜き、最後の最後にケーブルリリースを押します。「緊張の一瞬だ」とおっしゃっていました。これら一連の行為は、自然と一体になった神聖な儀式のようで、声も掛けられませんでした。



愛用のカメラで撮影する吉澤氏

ところで、選考した地質景観ですが、写真が欠けている、あるいは納得できる写真が無い景観は新たに撮影が必要でした。現地撮影や岩石採集のために氏と訪れた場所は県内一円に及びますが、氏のお人柄を感じた思い出がいくつかあります。小浜市内外海半島には、「白石黒石」と呼ばれる、花崗岩（白石）に堆積岩層（黒石）が貫入している貴重な地質現象があります。しかし、その接触境界は陸上では分かり難い。それではと民宿の船を借上げ、阿納～小鯿ノ鼻～七蛇鼻を周って蘇洞門まで。さらに、陸路ではアプローチが困難な松崎の鉱山跡にも上陸。往復2時間半かけて半島の背後（海側）から観察・撮影しました。何事も徹底的に、陸路が無理なら海から行きましょう！というのが氏の流儀なのです。この企画で私が初めて訪れた場所もありました。氏はそこに私を案内すると、「ね、素晴らしいでしょう」とまるで自分の家族を紹介するように解説してくださいました。また、逆に私が案内した露頭、例えば「世久見のメランジュ堆積岩」や「フタマゼ海岸のレーヤリング」では「初めて来ました！こんな凄い所があるのですね」と手放しで喜んでくださり、帰り時刻が迫る中、何カットも撮影していた姿が忘れられません。

『ふくい地質景観百選』に掲載した写真は、大地の物語から吉澤氏が読み取った一瞬を、自身のカメラ技術で、ユニークな地質景観として生き生きと再現したものです。伝えたいシーンを絶妙に切り取ってくる氏の感性と熟練したカメラワークに、ページをめくる度に改めて圧倒されます。そして、一緒に作業できたことに感謝します。



蘇洞門の花崗岩露頭を撮影する



世久見のメランジュ堆積岩を観察する



フタマゼ海岸のレーヤリングの露頭を見上げる

ようこそ！ホネ部へ

～動物の骨格と標本作製の魅力～

展示概要

令和6年7月13日(土) ▶ 9月29日(日)

今日もホネ部員は博物館の地下室へ集まる—今年で創立20周年を迎えた自然史博物館脊椎動物骨格標本作製ボランティアグループ「ホネ部」。一般市民の老若男女が集まり、動物の記録を博物館標本として後世に残すため、毎月コツコツ標本づくりを行っています。本特別展では、コウモリやタヌキ、フクロウ、リュウグウノツカイ、ウミガメ、イルカなど、ホネ部がこれまでに当館で作製した多数の骨格標本を展示し、動物の骨の魅力、面白さを解説するとともに、骨格標本作り方やディープなホネ部の活動に迫ります。

展示のみどころ

ホネ部謹製 大型動物の骨格標本

これまでに製作した約1.5mのイルカの全身骨格標本などを複数展示します。中でも全長5mを超すリュウグウノツカイの全身骨格標本は圧巻！世界最大のウミガメ「オサガメ」は本特別展にて福井初公開です。



オサガメの全身骨格標本



リュウグウノツカイの全身骨格標本



スナメリの全身骨格標本

あの身近な動物の素顔 -頭骨-

タヌキ、ネコ、ウサギ、カラス、フクロウなど福井で見られる動物の頭骨を一堂に展示します。意外に丸顔(たぬき顔)でないタヌキの頭骨や以外に大きく頑丈なくちばしのフクロウなど、頭骨を通して分類や生態に大きくかかわる素顔(頭骨)を暴きます。



タヌキ、ハシボソカラス、フクロウ、ニホンノウサギ(左上から時計回り)の頭骨

ホネ部に体験入部!?

交通事故にあったタヌキの運び込み、鳥の仮剥製の作製、動物の骨の比較やはく製の保存まで、触れるハンズオン展示からホネ部の活動を疑似体験することができます。



交通事故死したタヌキ(実際の重さに作製)を運び込む疑似体験



ホネ部って何者？

福井市自然史博物館の脊椎動物標本作製ボランティアグループの通称です。

2004年10月に当時の学芸員を中心に創立し、途中、何回か担当の学芸員が変わったものの、ここまで活動を継続させ、2024年で20周年を迎えました。毎月2回、土日のどちらかに福井市自然史博物館の地下作業室を中心にしています。

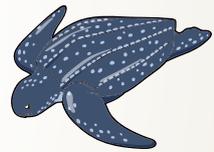
現在メンバーは高校生から60代まで約20人。いつも10人前後が活動に参加しています。女性が多いのも特徴です。

ウミガメなどの爬虫類から、フクロウなどの鳥類、カモシカなどの哺乳類まで骨格標本や仮剥製を中心に年間で約50体の標本を作製しています。2018年には全長5m超えのリュウグウノツカイ、2020年には18mのナガスクジラの骨格標本作りに

2023年
ホネホネサミット
へ参加



オサガメの骨を
縫い付ける部員



も関わりました。

その他、標本作りの面白さを伝える教育普及活動の補助や、数年に一度、全国の骨好き、標本好きが集うイベント「ホネホネサミット」に出展、参加したり、部内で発表会を開催し、知見を深めています。

長年にわたり、福井県の動物の標本収集・保管を担ってきた当館において、今やホネ部は欠かせない存在となっています。

新館長紹介



館長

末政 薫
Suemasa Kaoru



はじめまして、末政です。

本市の中心部に位置する足羽山・足羽川は、豊かな自然に溢れ、今もなお人々の生活に潤いを与えています。また、その周辺では多くの偉人が輩出され、脈々と培われた歴史・文化が息づいています。

足羽山での歴史・自然散策や足羽川でのアクティビティ体験など、教育旅行に最適ですので、北陸新幹線の旅でぜひお越しください。皆様の御来館を心よりお待ちしております。

《あとがき》

今号では、当館にて7月13日から開催している第91回特別展の見どころと、当館脊椎動物骨格標本作製ボランティアグループ「ホネ部」の活動を取り上げました。本特別展をご覧いただき、動物の骨の魅力や不思議さを感じ、動物の体の仕組みへの興味・関心を持っていただけたらと思っています。

また、当館特別館長として、幅広い自然史分野、特に地質学・天文学の研究・教育普及にご尽力された故・吉澤康暢氏のご功績は、当館の活動の歴史であり、大きな財産です。それらを後世へ引き継いでいくため、職員一同、努力していきたいと思っています。(加藤)

新職員紹介



課長補佐

田中 伸卓
Tanaka Nobutaka



長年、歴史の学芸員として仕事をしてきましたが、今回の異動で初めて自然史博物館にお世話になることになりました。

博物館では、虫、石、鳥、花、星など、好きなものをキラキラした眼で見つめる子どもたち（大人たちも！）と接することができ、嬉しく感じています。これからも皆さんにたくさんの驚きと興奮を届け、新しい世界へご案内できるように博物館であるよう、力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

《交通案内》

【電車】

- JR 福井駅から徒歩 30分
- 福井鉄道福武線 足羽山公園口駅・商工会議所前駅 各徒歩20分

【バス】

- 京福バス：清水グリーンライン(74系統) 足羽山公園下バス停(あじさいの道登る)・不動山口バス停(蔵島神社登る) 各徒歩10分
- すまいるバス：西ルート(足羽・照手方面) 愛宕坂バス停 徒歩 10分

《ご利用案内》

- 開館時間 ● 午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)
休館日 ● 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌平日、年末年始
入館料 ● 高校生以上100円(20名以上の団体は半額)
中学生以下、70歳以上、障がい者および付添の方は無料



学芸員

柴田 あかり
Shibata Akari

4月から福井に移り住みました。出身は京都ですが、大学院を北海道で過ごし、滋賀で働いていたこともあります。地域によって生えている植物も異なるので、まずは足羽山での植物観察を通して、福井の植物を覚えていきたいです。植物の種名だけでなく、植物の繁殖戦略や、植物と昆虫のかかわりなどにも興味があるので、今後、福井を拠点に調査していきたいと思っています。

